

平成25年度 燕市西蒲原郡特別活動部 活動報告

部長 古谷 一成

1 研究テーマ

お互いを認め合える学級づくり ～考えを伝え合う話し合い活動を通して～

2 組織

顧問：古谷 一成（燕市立燕東小学校） 部長：関川 真樹（燕市立燕西小学校）

部員数 9名

3 活動の概要

(1) 総会、第1回研究部会

① 実施期日・会場 4月17日（水） 弥彦村立弥彦小学校

② 内容

ア 特別活動部の組織づくり イ 研究テーマの決定

ウ 活動計画の作成

(2) 第2回研究部会

① 実施期日・会場 6月5日（水） 燕市立燕西小学校

② 内容

ア 部員一人一人が、研究テーマに沿って実践した「人間関係づくり」を意識した学級活動や児童会活動、異学年活動などの実践を持ち寄り情報交換を行う。

イ 紹介された実践の良い点、改善点等について意見交換することで、今後の自分の実践に生かせる情報を持ち帰る。

(3) 第3回研究部会

① 実施期日・会場 12月4日（水） 燕市立分水小学校

② 内容

ア 部員による公開授業と協議会

〔授業者〕 堀川 太郎 教諭（燕市立分水小学校）

〔指導者〕 小林 靖直 様（燕市教育委員会統括指導主事）

イ 授業の概要

（活動名） 「分小バンバン」の初めてのお店を大成功させよう！

（ねらい）

振り返りカードを基に、「分小バンバン」の活動を振り返り、自分の意見を発表することができるとともに、次の分小バンバンへの展望をもつ。

（提案性）

・発言の苦手な児童が進んで学級会に参加できるように、事前に振り返りカードを活用し、児童一人一人の考えをまとめさせておく。

・今年度の活動の反省を基に、来年の「分小バンバン」を展望させる時間を設定し、反省するだけでなく次はどうしたらよいか考えさせ、確認させる。

ウ 協議会の概要（略）

4 成果と課題（○成果 ●課題）

○ 子どもたち一人一人が生き生きと発表していた。振り返りカードの活用は、前もって意見がまとめられるため、特に発言の苦手な子どもには有効だった。

○ 振り返りカードに「お客さんは楽しんでたか」という設問があり、相手の具体的な姿を根拠に反省を述べていた子どもが多かった。

● 一人一人の意見が言いっぱなしで、交わる（討論）ことがなかった。学級会であれば、何らかの合意形成、自己変容が必要である。「多くの人たちにお店に来てもらいたい」というめあてに立ち返るため、議題に工夫が必要である。